

稲作管理特報

平成31年4月26日

入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

70株植えと浅水管理で初期分げつを確保し、「穂数型稲」への誘導を！

育苗管理は換気を徹底し、活力の高い苗に仕上げましょう。
また、品質の高い「みな穂産米」生産のため、5月15日を中心とした田植えと、適正な植付本数・植付深さの確保、70株／坪植え及び浅水管理で、初期分げつの発生を促し、穂数の確保に努めましょう。

1 4月下旬以降の育苗管理 ～換気を徹底する～

- ・ かん水は、毎朝1回たっぷりと行いますが、フェーン時など床土が白く乾き、葉がまき始めたら、すみやかにかん水をしましょう。
- ・ 田植え1週間前頃を目安に、夜間もハウスを開け、外気に慣らしてください。ただし、気温が5℃以下になると予想される場合は閉めてください。
- ・ 「ばか苗」は必ず抜取り、抜き取った苗は放置せずに埋せつしましょう。

2 代かき ～除草剤の効果を高める～

- ・ 代かきは田植えの2～4日前に行いましょう。
- ・ 代かきは浅水で、稲わらを埋没させるとともに、ほ場の均平に努めましょう。
- ・ 代かき後の濁り水は、ほ場外に流さないでください。また畦畔沿いに吹き寄せられた浮遊物は除去しましょう。

※代かき時に、水田から基肥一発肥料などの被覆殻が流出しないように注意する

3 苗箱施薬剤の散布 ～苗箱施薬剤は、除草剤と間違えないように散布する～

- ・ 田植え3日前～田植え当日に、薬剤を均一に散布（1箱当たり50gを厳守）。

「てんたかく」「てんこもり」「コシヒカリの一部※」	エバーゴルワイド箱粒剤
「コシヒカリ」ほか	ルーチントレス箱粒剤

※昨年、コシヒカリで紋枯病が多発した場合

- ・ 散布後は苗に付いた薬剤を払い落とし、軽く水をかけましょう。
- ・ 育苗後に育苗ハウスで野菜を栽培する場合、ハウス内での散布は行わないでください。

4 基肥 ～適正な基肥量を施用する～

※コシヒカリの場合

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)
一発体系	Lpssコシヒカリ1号または2号	38 (側条)
分施体系	基肥206号	30 (側条)

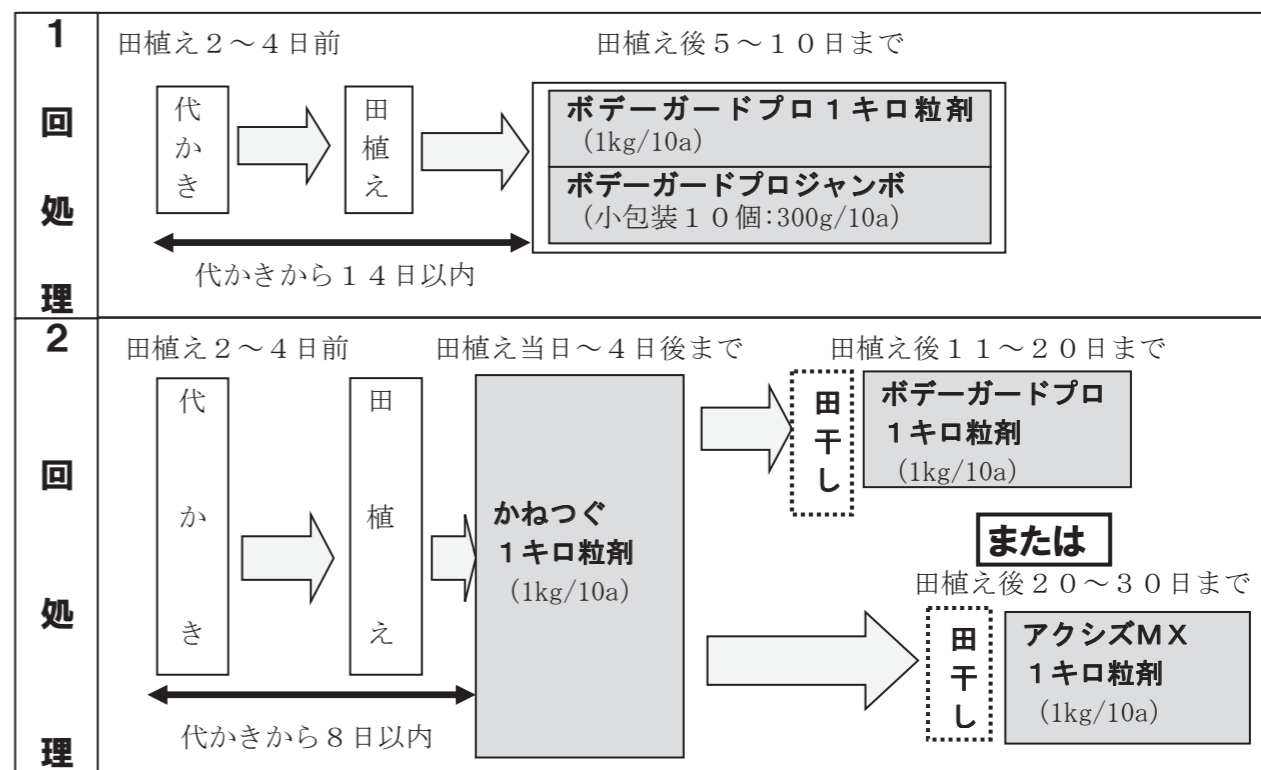
・春に堆肥を1t/10a以上散布したほ場は、基肥の施用量を1～2割減肥。

5 田植え ～適正な植付けと水管理で、分げつの確保に努める～

- ・ 栽植株数は70株／坪とし、初期分げつと穂数の確保に努めましょう。
- ・ 田植え時は、ほ場ごとに肥料の施用量を必ず確認しましょう。
- ・ 植付深さは3cm、植付本数は3～4本/株となるように調整してください。
- ・ 田植え直後は苗が水没しない程度の深水とし、活着後は水深2～3cm程度の浅水管理に切り替え、分げつの発生を促しましょう。
- ・ 入水は朝または夕方に行い、日中は水を止めて田水温の上昇に努めましょう。

6 除草剤の散布 ～使用方法を厳守し、適期に散布する～

- ・ 散布前に5cm程度入水し、5日間は止め水のうえ、湛水状態を保つようにしてください。
- ・ 水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと入水し、田面の露出を避けてください。
- ・ 散布後7日間は落水やかけ流しは行わないでください。
- ・ 2回処理の場合、除草剤散布直前に軽い田干しを1～2日程度行うことで、藻への効果を高めるとともに、有害なガスの発生を抑制してください。



＜かねつぐ1キロ粒剤を田植え同時処理する場合は、次のことに注意してください＞

- ① 漏水の多いほ場では使用しないでください。
- ② 軟弱苗の場合、田植え同時処理は控えましょう。
- ③ 極端な浅植えにしないでください。
- ④ 田植え後は、直ちに入水してください。

農薬は使用基準を正しく守り、使用後は栽培履歴簿に必ず記帳しましょう。